



したところ、9樹で菌糸付着・生育が認められませんでした。また、3樹では一部菌糸の残存が認められましたが、うち2樹では処理前と比較して生息域の

ビワ園で発生する白紋羽病は、樹体の衰弱や枯死を引き起こす土壌病害であり、これまでの予防技術だけでなく治療効果のある技術が必要です。そこで農研機構果樹茶業研究部門で開発された温水点滴治療法を具内で検討しました。

まず、樹幹下に点滴チューブ器具を設置し、廃ヒールで被覆した後、温水点滴処理機を用いて、45度の温水を滴下(1樹当たり水量800〜1000cc)し、地下30cm(1樹当たり3カ所測定)の地温が3カ所全て35度を超えた時点、または地下10cmの地温が1カ所でも43度を超えた時点で処理終了としました。その結果、県内6カ所で温水処理7〜12カ月後の状況を調査

ビワ 白紋羽病

45度の温水滴下処理 菌糸の増加なく効果

45度温水処理での地下30cm3カ所、35度到達条件での白紋羽病治療効果

試験した年月日	試験場所	処理樹数	処理時間 ²	処理から検査までの期間	治療効果 ³
2013年8月12日	雲仙市瑞穂町	2	4時間	8カ月	◎、○
2014年8月13日	西海市大瀬戸町	2	3時間50分	11カ月	◎、◎
2014年9月8日	長崎市宮崎町1	1	4時間	7カ月	◎
2014年9月9日	長崎市宮崎町2	2	5時間	7カ月	◎、◎
2016年9月15日	大村市鬼橋町	1	5時間5分	12カ月	◎
2017年9月8日	五島市籠淵町	4	5時間42分	9カ月	◎、◎、○、△

² 地下30cm3カ所の温度がすべて35度に達するまでの処理時間、複数樹処理の場合は、最も時間を要した時間を表す

³ ◎：菌糸付着なし。地上部の回復が見られる

○：一部、菌糸付着があったが増加なし。地上部の回復がみられる

△：一部、菌糸付着があり若干の増加あり。地上部の症状は進んでいない

トウ、桃の弱熱耐性果樹も含めて「白紋羽病温水治療マニュアル2018年速報版」を農研機構がホームページで公開しています。

(県農林技術開発センタービワ・落葉果樹研究室専門研究員 古賀敬一)

増加は認められず、残り1樹でも地上部の症状は進んでいないことから、温水治療の効果が確認できました(表)。

この成果は、ビワの他にオウ